

往航 I

皆さん出港日にはお見送り有難うございました。14時30分に出港し、神海丸は関門海峡を目指します。22時ぐらいには関門海峡西口から7海里ぐらいの地点で投錨し夜明けを待ちました。翌15日に5時30分起床の6時30分から本科生と専攻科生はコンパスデッキに上り、二等航海士からの説明を聞きながら関門海峡の通航を見学学習しました。事前に関門海峡について勉強していましたが、生徒たちは導灯や潮流信号所といった航路標識を、ワイワイ言いながら珍しそうに眺めていました。



コンパスデッキに海図台を出して、二等航海士からの説明を一生懸命に聞いています。



関門海峡の最狭部、早瀬瀬戸に接近中。通峡時は西へ6ノットの潮流が流れていました。向こうに見えるのは関門大橋です。



瀬戸内海と豊後水道を分ける速吸瀬戸を通過中、いよいよ太平洋に向けて南下します。

操練

正午過ぎに瀬戸内海と豊後水道を隔てる速吸瀬戸の見学を行い、昼食後は操練を行いました。船の世界では、出港して24時間以内に操練（避難訓練）を行うことが義務づけられています。操練を怠ると緊急時に大変困ることになるので、疎かにすることはできません。この時ばかりは、実習生だけでなく船員も併せて全員で行います。それぞれ救命筏に乗り組むメンバーで点呼後、船長の講和を聞きました。また、各船員には重要な持ち出し物件があります。誰がどんな物を持って逃げるのかを、実際に見て、説明してもらいました。その後、消火訓練の見学をしました。（防火→消火不可→退船の流れの操練でした。）最後に各部屋に備え付けの「膨張式救命胴衣」の着用と使用上の説明を聞いて操練を無事に終了しました。



部屋に備え付けの救命胴衣を携えて、船橋の後ろに集合です。救命筏の順番に縦列に並びます。



船上では、陸上と違い消防署も消防士もいないので、火災時は自分たちで消火しなければなりません。



各部屋に備え付けてある膨張式救命胴衣を実際に着用し、使用上の説明を聞いているところです。

指導教官の独り言

脱出時に実習生が船内に取り残されていないかの確認担当となりました。気を引き締めて頑張ります。